

活動報告書

報告者氏名：新明 智 所属： 県立相模原養護学校中学部 記録日：24年 9月30日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年：中学部2学年 10名（グループ学習）
- ・ 障害名：知的障がい
- ・ 障害と困難の内容
○着席して話を聞くことが難しい。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
視覚的に優位な生徒たちなので、興味が持てそうなものを画面に表示すれば、注目することができるのではないかと考えた。「見ることは楽しい」と感じる経験を積むことで、画面を見ることだけでなく、別の場面でも教員の話や発表者を注目し、着席して静かに話を聞くことができるようになるのではないかと考えた。
- ・ 実施期間：5月～7月（月2回）
- ・ 実施者：新明 智
- ・ 実施者と対象児の関係：中学部1年生の時から担任をしている。

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況
○教員が話しているときや友だちが発表しているときに気持ちがそれてしまい、離席してしまうことや声をだしてしまうことがある。
○テレビを用いた観賞では、画面にあまり注目せず自分の好きなことをしている生徒が多い。
- ・ 活動の具体的内容
電車や車に興味のある生徒が多いため、「うじゃぶー」や「電車が動く」のアプリをテレビに出力して授業を行った。自分がIpadを操作しているときには、Ipadの画面とテレビ画面を見比べながら楽しそうに行っていた。しかし、友だちが行っているときには離席をしたり、自分の興味のあることを行ってしまったりしていた。そこで環境を変えれば注目することができるのではないかと考えた。教室に暗幕を貼り、プロジェクターで画面を大きくして行った。テレビよりは注目することができるようになったが、動きが単調なことや音あまりでなかったため、しばらくすると以前と同じように自分の好きな活動をする生徒がでてきてしまった。何か良いアプリはないかと検索していると花火が打ちあがるアプリ「i♥Firew...lite」を発見した。夏に近い時期であったため花火を疑似体験することにも繋がると考え、そのアプリを使用することにした。タッチする面や長さによって花火の大きさが異なり、音もその大き

さに応じて大きくなったり小さくなったりする。音の大きさがわかるように校内にある一番大きなスピーカーを使用した。始めは教員が作成した花火を観賞した。迫力のある花火に圧倒されたのか全員が着席し、花火に注目するところが見られた。その後、一人ひとりが iPad を操作して花火を打ち上げた。自分が操作しているときだけでなく、友だちが行っているときでも着席して花火が打ち上げられる所を静かに楽しそうに見ていた。

・対象児（群）の事後の変化

○朝の会、帰りの会などで教員の話の静かに聞けるようになってきた。

○友だちが発表しているときには着席して話を聞くことができるようになってきた。

○行事の予習や復習時に画面に表示された写真や動画を注目することができるようになり、教員の質問にも答えることができるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

生徒たちが注目できないこと、話を聞けないことをただ注意するのではなく、なぜ注目できないのかどのようにすれば話を聞いてくれるのかを考えることが大事であることに気づいた。今回の経験を生かして視覚的にわかりやすいものを提示しながら話をしていきたいと考えている。

・その他エピソード（画像などを含めて）

